

## 研究要旨

### 「看護師の働き方改革を実現するための基礎的調査」

新潟国際情報大学経営情報学部経営学科  
内田亨

#### 1. 研究目的

本研究の目的は、「看護師に幸せ感を持って働いてもらうにはどのようにしたらよいか」という問いを解明することである。そのためにまず、基礎的調査として看護師と看護師を取り巻く環境がどのように関係しているか現状把握をする。次に、看護師の病院理念への共感度に関して実態調査をする。

#### 2. 先行研究の検討

看護師に幸せ感を持って働いてもらうための先行研究として、幸せ、職務満足、二要因理論、経営理念、医師の働き方改革の検討を行う。

#### 3. 質問票調査

##### 3.1 調査対象

調査対象は、西日本のA病院、B病院、C病院で働く看護師である。A病院は、200床クラスの急性期病院である。B病院は、500床クラスの慢性期病院である。C病院は、400床クラスの精神科病院である。

##### 3.2 調査項目

調査項目は次の6つのカテゴリーである。

1. 個人属性、2. 看護職、3. キャリア、4. 人間関係、5. 福利厚生、6. 理念

##### 3.3 調査結果

3施設の看護師に質問票調査を実施し、379人（うち有効回答数358）の回答を得た。施設別に見ると、A病院177（うち有効回答数160）、B病院133（うち有効回答数124）、C病院79（うち有効回答数74）である。

看護師と看護師を取り巻く環境がどのように関係しているか現状把握として下記があげられる。

- ①国試合格時に看護師を目指した理想を今も持ち続けている人ほど、病院理念について共感している。
- ②自分の看護観と職場の看護観に違いやギャップを感じている人ほど、認定看護師、管理職、教育職、等自分がこの先進みたいと希望する方向に進みにくいと感じている。
- ③自分の看護観と職場の看護観に違いやギャップを感じている人ほど、年上の後輩に指導することや、年下の先輩に指導を受けることを苦痛に感じている。
- ④自分の看護観と職場の看護観に違いやギャップを感じている人ほど、夏休み・リフレッシュ休暇がほしい、必要だと感じている。
- ⑤認定看護師、管理職、教育職、等自分がこの先進みたいと希望する方向に進みにくいと感じている人ほど、職場での立ち位置が最終学歴によって決定されていると感じている。
- ⑥職場での立ち位置が最終学歴によって決定されていると感じている人ほど、年齢が高く、当病院勤続年数、他病院も含めた勤続年数が高い。
- ⑦年上の後輩に指導することや、年下の先輩に指導を受けることを苦痛に感じる人ほど、患者に接するときに苦痛に感じたり、患者の家族に接するときに苦痛に感じたりする。

- ⑧プライベートで会う同期生、同僚が院内に多いほど、同期や同僚と一緒に出掛けたり、食事に行ったりすることが多く、業務上、療養支援者の人に支えられたことが多く、療養支援者の人と一緒に出掛けたり、食事に行ったりすることが多い。
- ⑨他病院も含めた勤続年数が長くなればなるほど、同期や同僚と一緒に出掛けたり、食事に行ったりすることが少なく、プライベートで会う同期生、同僚が院内に少ない。ただし、当病院の勤続年数が長くてもこうしたことはない。
- ⑩休憩時間に休めていない、リフレッシュできていないと思っている人ほど、夏休み・リフレッシュ休暇がほしい、必要だと感じている。
- ⑪年齢、当院勤続年数、他病院も含めた勤続年数が高いほど、休憩時間に休めていない、リフレッシュできていないと思っている。
- ⑫夏休み・リフレッシュ休暇がほしい、必要だと感じている人ほど、夏休み・リフレッシュ休暇を取ると、1週間程度欠員が出た状態で業務を行い、それをフォローするため人数・回数を働くことになったとしても夏休み・リフレッシュ休暇をほしいと考えている。
- ⑬夏休み・リフレッシュ休暇がほしい、必要だと感じている人ほど、通勤、社会保険、等の仕事以外のことを相談できる部署・窓口がほしいと思うことがある。

看護師の病院理念への共感性に関して、最終学歴別の結果では、次の通りである。

- ①全施設合計の結果、病院理念に関して（あまり感じない+ほとんど感じない）が全体の1/4を占めた。どの施設も素晴らしい理念を掲げているが看護師が共感できないという点が課題としてあげられる。
- ②病院理念への共感性は5点満点で平均すると、A病院2.86、B病院3.05、C病院3.28、の順番になっているが、A病院とC病院の間に有意差が見られた。すなわち、A病院はC病院に比べて病院理念に関する共感性は低い。  
また、平均が3.00前後という結果は、これら3病院では、病院理念があまり共感性を持たれていないことを浮き彫りにしている。
- ③A病院では、大学卒の看護師の共感性が低く、（あまり感じない+ほとんど感じない）は、41%とかなり多い。
- ④B病院では、専門学校卒の看護師の共感性は低く、（あまり感じない+ほとんど感じない）は29%と大学卒の15%に比して2倍近い値を示している。
- ⑤C病院では、病院理念に関して（あまり感じない+ほとんど感じない）が16%と全体的に低い。すなわち、他病院に比べて、病院理念に対して共感性が高い。ただし、大学卒の看護師は、（あまり感じない+ほとんど感じない）が25%と専門学校卒の看護師に比して高い値を示している。

#### 4. 質問票調査結果から得られた次の研究課題

A,B,C病院合計結果の相関記述から様々な相関が明らかになったが、今後これらの相関関係の分析の精緻化が必要となる。また、3施設全体と比べて施設別ではどういった違いがあるかを詳細に見ていくことが必要となる。

病院理念に関する共感性調査結果では、最終学歴別に病院理念に関する全体合計及び施設ごとの結果を分析した。今後は、たとえば属性としては、年齢、職種、当病院・他病院を含めた勤続年数などでの結果分析が望まれる。一方、「国試合格時に看護師を目指した理想は今も持ち続けていますか」、「自分の看護観と職場の看護観に違いやギャップを感じることはありませんか」、「職場の教育制度や研修制度に満足していますか」などの設問との相関関係を分析し、病院理念に関する共感性に影響を与える因子が何かを明らかにしていく。